荒川の流域にくらすみなさんに

荒川は、埼玉県の「母なる川」とよばれています。上流には秩父盆地をもち、山地部をぬけ平野部へでてからは県の中央部をうるおし、東京湾へと注いでいます。日本の川は、山がちな国土（列島）に発達しているため、大陸の川にくらべると、短く、急流をなして流れています。荒川の場合もふだんは静かですが、降水があると増水し、激しい流れに変わります。「荒川」という名前がこの性格をよく表しています。

川の性格はわたしたちの生活の変化によっても変わります。とくに荒川の下流には巨大都市「東京」がひかえています。埼玉県側でも都市化がすすみ、農業が中心であったころとくらべて、川の役割や特徴もずいぶん変わってきました。埼玉県にとって大切な荒川は、また日本の川のことを理解する上にもおおきな意味をもっていると言ってよいでしょう。

この本は、このような荒川と、その流域の自然や人々の生活について、鳥が空から地上を見おろすような立場で、広い視野からながめてみようという目的をもって作られました。川は、人間のからだでいえば血管にあたる大切な部分です。わたしたちの生活の舞台である大地の環境を良くし、守っていくためにも川をいろいろな目で理解してみることが大切であると思います。小学生や中学生のみなさんに、いろいろな機会にこの本をひらいていただき、新しいことに気づいてもらえるように期待しています。

埼玉大学／立正大学名誉教授　元木　靖

荒川読本の改訂にあたって

この本は、荒川流域の小学生に、川が果たす役割やそこに暮らす人々の営みなどを学習し、河川に対する理解を深めて頂くことを目的に、副読本として平成６年に初版を発行し、流域内各小学校へ配布していたものです。

今回、平成30年に荒川上流部改修開始から100周年を迎えることを機会に、荒川読本の見直しを行いました。

■改訂のポイント

・以前の荒川読本の内容を基本としつつ、状況が変わっている内容や古くなったデータを更新しました。
・冊子だけではなく電子データとして、内容ごとに完結した形となるよう編集しました。それにより、必要な部分を先生に選んでお使い頂けます。

荒川上流河川事務所